

令和4年度 高知県普通会計決算見込みについて（ポイント編）

1 歳入歳出決算額の状況

（単位 百万円、％）

○新型コロナウイルス感染症対策や国の防災・減災、国土強靱化対策を活用した公共事業の減などの影響により、歳入・歳出ともに前年度を下回った。

○実質収支は、36億74百万円の黒字。

区分	R4年度	R3年度	増減額	増減率
歳入総額 A	496,689	543,650	△46,961	△8.6
歳出総額 B	483,483	530,079	△46,596	△8.8
形式収支 C (A-B)	13,206	13,571	△365	△2.7
繰り越すべき財源 D	9,532	11,577	△2,045	△17.7
実質収支 E (C-D)	3,674	1,994	1,680	84.3

① 歳入科目の主な減要因

R3:5,436億50百万円 → R4:4,966億89百万円 (△469億61百万円)

○新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減などにより、**国庫支出金が前年度比で155億47百万円の減**となった。また、普通交付税の追加交付の減などにより、**実質的な地方交付税（地方交付税+臨時財政対策債）が前年度比で227億95百万円の減**となった。

② 歳出科目の主な減要因

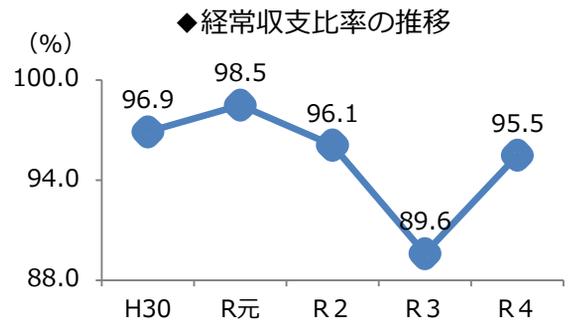
R3:5,300億79百万円 → R4:4,834億83百万円 (△465億96百万円)

○新型コロナウイルス感染症対策のための補助金の減などにより、**補助費等が前年度比で98億92百万円の減**となった。また、国の防災・減災、国土強靱化対策を活用した公共事業の減などの影響により、**普通建設事業費が前年度比で183億18百万円の減**となった。

2 各財政指標の状況

○財政構造の弾力性を示す経常収支比率（※）は、前年度から5.9ポイント増加し、95.5%となった。

○県債残高は、臨時財政対策債の発行減などにより、前年度から減少。一方、臨時財政対策債を除く県債残高は、地方交付税措置率の高い地方債を活用し、防災・減災に資するインフラ整備を加速化した結果、前年度より増加。



（※）経常収支比率：経常経費充当一般財源等 / 経常一般財源等総額

① 経常収支比率

○実質的な地方交付税の減などに伴い、算定の分母となる経常一般財源等総額が減となったことから、前年度から増加した。

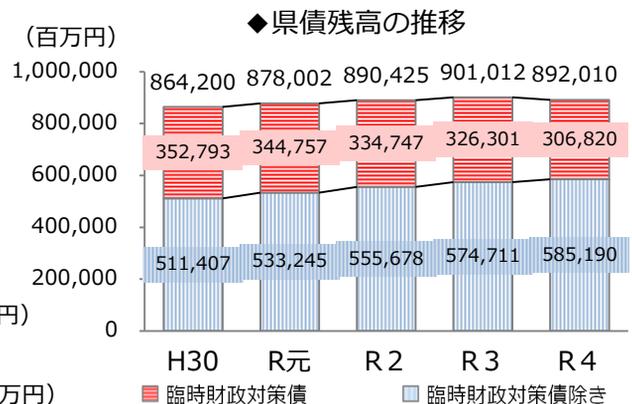
② 県債残高

○県債残高総額

R3:9,010億12百万円 → R4:8,920億10百万円 (△90億2百万円)

○臨時財政対策債を除く県債残高総額

R3:5,747億11百万円 → R4:5,851億90百万円 (+104億79百万円)



3 将来に向けた基金の確保

○財政調整的基金は、決算剰余金の積立てなどにより、前年度比で33億55百万円増加し、R4年度末残高は361億68百万円となった。

